

学年	教科等	題材名	日時
第6学年	図画工作科	いろいろ 色水	令和6年2月9日(金)

## 1 本時の目標

教室の様々な場所に色水を配置する活動をとおして、色水をどのように配置したら、その場所が、より素敵な雰囲気になるかということを考えることができる。

## 2 指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
<p>1 本時の活動について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 色水の配置について <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きらきらしたイメージの黄色い色水だから、光の当たる棚の上に置くのはどうかな。」 等</li> </ul> </li> <li>○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>色水をいろいろな場所に置いて、素敵な雰囲気にしよう。</p> </div> </li> </ul> <p>2 本時の活動の流れを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動の見通し <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動→ミニ鑑賞会→次時の活動のイメージ</li> </ul> </li> </ul> <p>3 色水を教室の様々な場所に配置する。（★）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動場所の選択 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「布巾かけに吊るしてみたい。」</li> <li>・「光の当たる窓辺に並べてみたい。」 等</li> </ul> </li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 【布巾かけに吊るす】 【光を当て、色の付いた影をつくりだす】</li> <li>○ 並べ方の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「色水の高さが段々低くなるように並べてみたい。」</li> <li>・「色のグラデーションをつくりたい。」 等</li> </ul> </li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 【階段状に並べる】 【だんだん濃くなるように並べる】</li> <li>○ ミニ鑑賞会用の写真の提出 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動前の写真と活動後の写真を提出する。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  <p>【活動後の写真】</p> </div> </li> </ul> <p>4 ミニ鑑賞会を行い、次時の活動のイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ミニ鑑賞会</li> <li>○ 次時の活動のイメージ <ul style="list-style-type: none"> <li>・「もっと明るい雰囲気になりたい。」 等</li> </ul> </li> </ul>	<p>○ 色水1本を提示し、「この色水をどこに置いたら素敵なかな。」「その隣にはどの色水を置いたらよいかな。」と尋ね、色水の配置について考えさせることで、本時のめあてにつなげることができるようにする。</p> <p>○ 活動の前後に撮った写真を使って、場所の雰囲気の変化を味わうミニ鑑賞会を行うことを知らせておくことで、雰囲気を変化させることを意識しながら、時間いっぱい活動することができるようにする。</p> <p>○ 活動形態は指定せず、個人とするか、仲間と協力するか等を自分で選択できるようにすることで、次々に変化する自分の思いを大切に活動できるようにする。</p> <p>○ 色水づくりの材料を準備しておくことで、新しい色水をつくることのできるようにする。</p> <p>○ 活動の様子に応じて、次のような言葉かけを行うことで、場所や並べ方等への新たな気付きを促し、さらに発想したり構想したりすることができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ワイヤーにも吊るせそうだね。」</li> <li>・「色水の階段、どこまで続くのかな。」 等</li> </ul> </div> <p>○ 活動が停滞しているように見える子どもには、「今、どんな感じなのかな。」と状況を尋ね、困っている場合には次のように助言することで、時間いっぱい活動し続けることができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【したいことはあるが、やり方が分からない場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「他の人の様子を見に行ってください。」</li> <li>・「こうすると吊るすことができるよ。」 等</li> </ul> <p>【活動が終わったと感じている場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新しい色水をつくってみよう。」 等</li> <li>・「何も置かれていない場所があるよ。」 等</li> </ul> <p>【活動を思い付かない場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「色水をいろいろな場所に置いてごらん。」 等</li> </ul> </div> <p>○ 活動後の写真には、素敵だと感じる部分に印を付けさせることで、どのような配置の工夫をしたのかふりかえることができるようにする。</p> <p>○ 提出された写真のスライドショーを視聴させることで、教室の雰囲気の変化や仲間の活動の工夫に目を向け、新たな気付きを得たり次時の活動のイメージをもったりすることができるようにする。</p>

### 3 本時の評価規準

素敵な雰囲気になるように、周囲の様子と合わせながら色水の配置の工夫を考え、配置している。

(思考・判断・表現)【行動観察・写真分析】

### 4 板書等

【↑本時への思いをまとめた掲示物】  
1週間掲示し「やってみよう」という思いをもち続けることができるようにした。

【→本時の活動の様子】

材料選び      それぞれが思いついた活動      ふりかえり

### 5 指導講評

#### 宮崎県 教育研修センター 水田 幸児 指導主事

- ・ 学びを調整する力を高めるには、教師が授業の全てをコントロールするのではなく、子どもに学習の進め方を選択するチャンスがあることがポイントである。本時でいえば「一人ですか、グループですか」「材料はどうするか」「場所はどこですか」と、子どもに選択するチャンスがたくさんあったことがよかった。
- ・ 学習の進め方を自ら選択できるようにするためには、「ゴールの姿」を教師と子どもが共有し、学習の動機付けを行い、見通しをもたせておくことが大切である。造形遊びをする活動においては、導入でイメージの方向付けを強くしてしまうと、イメージ先行で造形活動が進んでしまう。本時は、「どんな色になるかな。」「この色水をどこに置いたら素敵かな。」と、「材料」や「場」「空間」に視点がいくように導入していたところがよかった。
- ・ 「言葉かけ」については、今後検討してほしい。「活動が終わっていると感じている場合」や「活動を思い付かない場合」を想定した言葉かけを準備することは大切である。加えて、言葉かけの役割を「本時のねらいを達成するため」と考えるなら、次のような言葉かけが考えられる。

「何になりそう」でイメージを膨らませる。  
 「離れてみたら」「違うところから見てみたら」と空間や場を含めた活動になるようにする。  
 「どんな感じ」と感覚や気持ちにつなげる。  
 「他の人の活動の様子も見てきたら」と新しい発見や学び合いにつなげる。

「空間」や「場」の視点、「学び合い」の視点は、学習の最後の「ふりかえり」の視点や、教師の評価とも関連してくると考えられる。

#### 宮崎大学 幸 秀樹 教授

- ・ できたものをきっかけに、新しい出来事が起こったり、思いもよらないものがその場で生まれてきたりするような姿を引き出せると、図画工作科のねらう子どもの姿が出てくるのではないかと思う。色をつくるだけでなく、色水に変えるという意味や、色水を2層にする意味を考えてほしい。また、展示するにしても、ペットボトルを逆さに置くだけでも見え方が変わるので、子どものなかで、こだわりが出てくるとよい。

### 6 考察

- ① 材料選びや場の設定、活動形態の工夫…子どもにとって自由度の高い造形遊びだからこそ、ねらいに沿った活動になるような材料選びや場の設定が必要である。活動形態や活動場所を自分で選択できるようにしたことで、子どもは自分の思いを実現することができたといえる。今後は、一人一人の活動場所を把握できるような工夫が必要である。
- ② 「やってみよう」と思える導入の工夫…掲示物を使って、題材の導入時に抱いた「やってみよう」という思いを想起させた。掲示物を1週間掲示していたことで、一人一人が、題材のゴールまでの見通しをもち、そのために本時の活動をどうしていきたいか、という思いをもつことができていた。前時からの思いを持続させる工夫として、掲示物は有効だった。
- ③ ねらいを達成するための教師の言葉かけの工夫…主に、したいことはあるがやり方が分からず困っている子どもに対して言葉かけを行った。子どもの思いに応えられるような材料や用具の提案ができるよう、十分な教材研究が必要である。今後は、学習のねらいを達成するための言葉かけの種類を増やしていく必要がある。
- ④ 活動を次(次の時間、次の題材、日常生活)につなげるための工夫…活動後も色水を教室に置いておくようにした。日常的に眺めたり並べ替えたりして色水と親しむことが、楽しく豊かな生活につながったと考えられる。